

NEWS RELEASE

2018年（平成30年）10月24日

報道関係者 各位
飼料用米に関する事業者の皆様方 各位
消費者の皆様 各位
行政省庁、学者、研究者、学生 各位

一般社団法人 日本飼料用米振興協会

(J-FRA ジャフラ)

東京都中野区弥生町一丁目17番3号 〒164-0013

<http://www.j-fra.or.jp/>
postmaster@j-fra.or.jp

問い合わせ先

理事長 海老澤恵子 070-5543-1448 ebisawa_keiko@j-fra.or.jp

理事・事務局長 若狭良治 070-3522-3151 wakasa_ryoji@j-fra.or.jp

目次

第1報道資料 (第二報) 2018年10月24日

「第3回 コメ政策と飼料用米の今後に関する意見交換会」の開催について

第2報道資料 「第5回（通算12回）飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会 飼料用米多収日本一・畜産物ブランド日本一表彰式 ～飼料用米普及のためのシンポジウム2019～」の開催について（予告）

◇◇・◇◇◇◇・◇◇◇◇・◇◇◇◇・◇◇◇◇・◇◇◇◇・◇◇◇◇・◇◇◇◇・◇◇

第1報道資料 (第二報) 2018年10月24日

「第3回 コメ政策と飼料用米の今後に関する意見交換会2018」の開催について

開催要領

開催趣旨

今年の飼料用米作付けは昨年度と比較して微減の状況のようですが、利用する立場での養豚事業者や養鶏事業者などでは積極的に飼料用米の確保と保管設備を建設するなど意欲は旺盛です。

日本飼料用米振興協会では今年、9月25日～27日に大分県、福岡県、山口県などの産地（飼料用米、養豚、養鶏など）を視察してきました。多収日本一や畜産物利用ブランド化日本一に対する期待する意欲は旺盛でした。

今後の食料自給率の向上や飼料の国産化を目指す場合、飼料用米の作付けの確保は重要な課題と考えます。

国産飼料増産への今後の方向や可能性について意見交換を行いたいと考えました。

開催日時：2018年（平成30年）11月28日（水）

13:00（開場）開会13:30 ～ 終了予定16:30



会 場：食糧会館 中央区日本橋小伝馬町 15-15 会議室（5階 A/B 会議室）
<http://www.zenbeihan.com/overview/outline.html>（詳細は HP から）

対 象：関係官公庁（農林水産省、自治体など）、コメ生産者/流通業者、
畜産生産者/流通業者、農業団体、飼料製造/販売業者、物流業者、消費者団体、
研究・教育関係者、報道関係者 等

主 催：一般社団法人 日本飼料用米振興協会

参加費：無料（会場の都合で70名程度）

参加者公募メールアドレス meeting20181128@j-fra.or.jp

設定済みです。参加申し込みは可能です。

本ニュースリリースをホームページ <http://www.j-fra.or.jp/> に掲載します。

内容を現在企画進行中ですので、順次、ホームページに掲載します。ご利用ください。

プログラム

開会挨拶 J-FRA・海老澤恵子理事長

基調講演 「米政策の推移について」

小針 美和（コバリ ミワ）氏

主任研究員：農林中金総合研究所／協同組合・組合金融（調査第一部）

基調講演 「飼料用米の推進について」

淵上 武士（フチガミ タケシ）氏

課長補佐：農林水産省／政策統括官付穀物課企画班

話題提供 業界の皆様に話題提供をしていただきます。現在折衝中です。

意見交換 司会進行 信岡 誠治（有識者 前東京農業大学農学部教授）

課題挨拶 加藤 好一 副理事長：生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 会長）

参考資料

昨年の資料「第2回 コメ政策と飼料用米の今後に関する意見交換会」の当日発表資料は下記のアドレスでダウンロードできます。

http://www.j-fra.or.jp/2nd_kome_meeting_policyopinion_discussion_20171115wordtext_without_namelist.pdf

第2 報道資料

一般社団法人 日本飼料用米振興協会（j-fra）は、

第5回（通算12回） 飼料用米を活かす日本型循環畜産推進交流集会

飼料用米多収日本一・畜産物ブランド化日本一表彰式、

～ 飼料用米普及のためのンポジウム2019 ～

を来年（2019年）3月15日（金）に、開催します。

参加者公募メールアドレス sympo20190315@j-fra.or.jp

設定済みです。公募開始は1月上旬から行います。それまでは質問や要望などをお送りください。

会場は、東京大学弥生講堂（一条ホール・会議室・ロビー）

（東京都文京区弥生1-1-1 弥生キャンパス 280名収容可能）（参加費無料）。



本ニュースリリースをホームページ <http://www.j-fra.or.jp/> に掲載します。
シンポジウムの内容を現在企画進行中ですので、決まり次第、順次、ホームページに掲載します。
ご利用ください。

なお、会場の都合で、280名の収容能力のために、満杯になり次第募集を締め切ります。
その際、当日配布資料の希望を受け付けます。お一人1部とさせていただきます。
シンポジウム終了後、ホームページで資料PDFのダウンロードを行えるようにいたします。

10時30分開場、11時～17時にシンポジウムを開催します。

12時～12時50分の間、弥生講堂ロビーで資料展示、会議室で試食会を行います。

昼休み時間の休憩中の時間を利用しますので、参加者は事前におにぎりやサンドイッチなどの軽食を用意しておいてほしいと主催者は希望しています。

試食では飼料用米育ちの豚肉、卵、肉製品などを用意する予定です。

※なお、講演会場での食事はできません。正門正面の能楽3号館地下に東京大学消費生活協同組合が運営します食堂を利用できます。また、当日は近隣の食堂等のマップをお配りします。

開催趣旨

〈目的〉

食料自給率の向上を目指し、耕（作）畜（産）消（費）の連携を実現することで、国産飼料用米による給餌を推進します。

コメ育ちの畜産物（牛肉・牛乳・豚肉・鶏肉・鶏卵 およびその派生商品）のブランド化及びその流通、消費を促進するための事例紹介を通じて、課題を明らかにして改善を図ることにより飼料用米の振興を目指す。

〈概要〉

日本飼料用米振興協会が主催している農業・畜産関連団体、流通事業者、流通・購入消費に関わる団体、個人及び研究者による普及交流集会「飼料用米普及のためのシンポジウム2019」と、一般社団法人日本飼料用米振興協会及び農林水産省が共同実施している「飼料用米多収日本一表彰事業」および農林水産省補助金事業を実施している一般社団法人日本養豚協会の「飼料用米活用畜産物ブランド化事業コンテスト日本一表彰事業」表彰式を合同で実施します。

〈由来〉

本協会は、2008年（平成20年）に穀物価格が高騰したいわゆる「畜産・大パニック！」の際に、国内の畜産農業を守り、食糧自給率の向上などを目的に開催された「学習会」を起点に組織された「超多収米普及連絡会」が原点です。

その後、飼料用米の普及や、日本型循環畜産と農業、流通、消費の連携などを目指して活動してきた7年間の活動実績を踏まえて、2014年（平成26年）4月にさらなる推進のため、組織の一般社団法人化を実現しました。

法人化後、毎年3月に、次のようにシンポジウムを開催してまいりました。

（2015年3月20日）、法人化第1回（通算8回目）の「シンポジウム2015」

（2016年3月11日）、法人化第2回（通算9回目）の「シンポジウム2016」、

（2017年3月17日）、法人化第3回（通算第10回目記念）の「シンポジウム2017」と
「飼料用米多収日本一表彰式」の合同企画として開催

（2018年3月9日）、法人化第4回（通算第11回目）の「シンポジウム2018」と



「飼料用米多収日本一表彰式」、「飼料用米畜産物ブランド日本一表彰式」の合同企画として開催。

(2019年3月15日)、法人化第5回(通算第12回目)の「シンポジウム2019」と

「第3回 飼料用米多収日本一表彰式」、「第2回 飼料用米畜産物ブランド日本一表彰式」の合同企画として開催します。

従来推進してきた「飼料用米の利点、給餌された家畜(鶏卵、鶏肉、牛肉、牛乳、豚肉)などの食味の改善などの成果を強調し、普及促進をしてきたが、国内外の様々な経済的変動、畜産・農業環境の大きな変化を背景に、食料自給率の向上が大きな課題となってきたことを受けて、食料自給率を巡る話題や特に米国における農産物に対する助成金の実態など国際的な農産物の安全保障上の問題点を掘り下げてきました。

また、シンポジウムでの発表委や展示をきっかけにして新たな事業なども生まれてきました。

飼料用米の生産コスト削減に向けて、可能な限りの工夫を行うことで、生産、物流、保管コストの低減化を検討した成果を報告します。

今年、2019年のシンポジウムの運営は、前記の日本一表彰式との合同開催ということで、全体をシンポジウム1部、3部と表彰式2部の部構成となっています。

第1部は当協会のご挨拶、連帯のご挨拶、基調講演。

第2部として午後一番で表彰式を実施します。

「飼料用米多収日本一表彰式」飼料用米畜産物ブランド日本一表彰式」

全国の農家や企業、団体などからの公募で。平成30(2018)年度の実績を基に厳正に審査を行い、日本一を決定することで作業を進めております。

二つの「表彰式」で実績、成果を報告し、表彰式、表彰者の挨拶をいただくことにしています。

第3部では、全国でさまざまに行われている飼料用米の生産、利用、普及の活動を報告していただきます。現在、検討を進めております。今後の情報をお待ちください。

多くの消費者、主婦をはじめ、配合飼料メーカー、物流事業者、保管事業者、農業協同組合、農事法人、農家、研究者、学生などの方々が理解しやすい日本における水田のフル活用、飼料用米の利活用について皆様と考え、交流する場としてまいりたいと思います。

配布資料

シンポジウム会場で講演・報告者の資料を配布します。事前作成のため、当日変更する部分が発生しますが、最終発表資料は、終了後、直ちに最終報告資料としてホームページでPDFを掲示します。

交流懇親会

終了後、東京大学消費生協の農学部食堂で希望者による交流懇親会を開催する。

17:30から有料で3,500円。ホームページで募集します。

なお、意見交流懇親会を積極的に取材していただきたいと、開催事務局では、出席者の生の声を聴いてほしいとしている。そのために、報道関係者の方は、取材のため飲食等ができないということで、参加費無料としておりますので、参加者申込書に報道と記載してください。

以上

問い合わせ先

<J-FRA>*****



一般社団法人 日本飼料用米振興協会 運営事務局
Japan Feed Rice Association (j-fra)
executive secretariat

URL : <http://j-fra.or.jp/>

Mail : postmaster@j-fra.or.jp

事務所：東京都中野区弥生町 1 丁目 17 番 3 号

Phone : 070-5543-1448 (海老澤恵子)

+

Phone : 070-3522-3151 (若狭 良治) e-Mail : wakasa_ryoji@j-fra.or.jp

意見交換会 meeting20181128@j-fra.or.jp

シンポジウムなど sympo20190315@j-fra.or.jp

一般社団法人 日本飼料用米振興協会 (J-FRA ジャフラ)

理事長	海老澤恵子 (j-fra 代表理事) (中野区消費者団体連絡会 副会長)
副理事長	加藤好一 (生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 会長)
理事・事務局長	若狭良治 (NPO未来舎 副理事長)
理事	木村友二郎 (木徳神糧株式会社 顧問)
理事	阿部健太郎 (昭和産業株式会社 飼料畜産部長)
理事	遠藤雄士 (全国農業協同組合連合会 耕種総合対策部 飼料用米対策課長)
理事	信岡誠治 (有識者 元・東京農業大学農学部畜産学科教授)
理事	谷井勇二 (有識者 元・全国農業協同組合連合会 職員)
監事	岩野千草 (中野区消団連事務局)